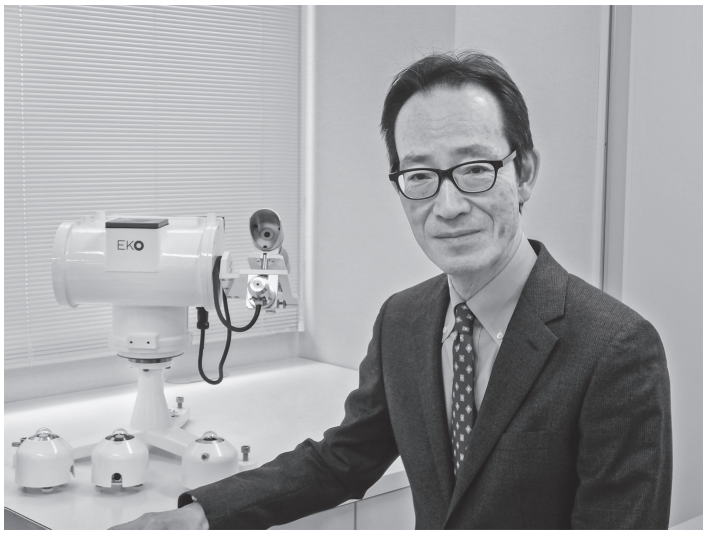
科学機器業界キーパーソンインタビュー

英弘精機株式会社　長谷川壽一社長



測定機器の老舗メーカー
ユニークな製品を武器に世界展開加速

――まずは会社沿革からお話しください。

1927年に、椎名英二と戸澤弘によって「英弘商会」を創業し、今年で93年を迎え世界の研究機関を支える企業として「環境・新エネルギー」と「物性分析」をテーマに、グローバルに事業を展開しています。

「英弘」とは、二人の創業者である椎名英二の「英」と戸澤弘の「弘」を結んだものです。会社のロゴであるEKOは英語では「EIKO」となるスペルをドイツ語では「EKO」となることが由来で、当初からそのまま使っております。

▼日本初の球型日射計

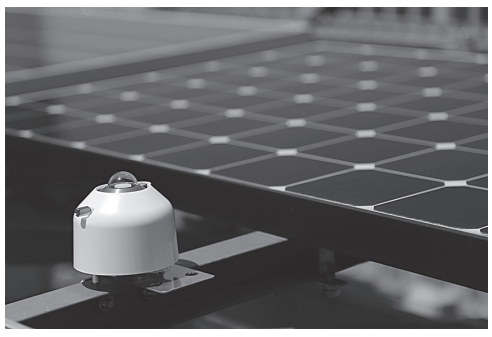
――事業内容や取り扱い製品をお聞かせください。

自社製品としては日射計、日照計、分光放射計などの放射計測機器と太陽光発電関連の評価機器、そして熱流計などの熱測定機器です。日射計の開発のきっかけは1951年に第三回国際地球観測年（IGY）が提案されましたが、日本はまだまだ戦後の国土復興や国際的な信頼回復の途上で、国際的な地位を高めるためにIGYに参加したのです。そのような中、気象庁から南極で熱収支の観測に使用できる全天日射計の開発の依頼があり、気象庁のご協力と開発者の努力の結果、日本初の球型日射計を開発できました。第一次南極観測隊に使用され、多くの貴重なデータが得られました。このことが日射計メーカーとして、その後現在の地位を築いた礎となっています。

計測器メーカーとして海外で認められるために計測の精度から機器の校正まで、まさにユーザーに信頼性を担保する試験所・校正機関認定「ISO17025」を「直達日射計と全天日射計の校正」と「粘度測定及び粘度計校正」で取得しています。

世界に進出するスタートとなったのは、1998年に6年に及ぶ評価テストの結果、米国海洋大気庁（NOAA）と、自動地上気象観測システム（ASOS）への日照計納入契約に成功したことです。その後、この日照計は日本の気象庁観測システム「アメダス」にも採用されました。さらに、日射を波長別に分光して測る全天候型分光放射計を世界に先駆けて開発し、海外の研究機関に納入した結果、経済産業省の「グローバルニッチトップ企業100選」に選ばれております。

また、一方、弊社は、物性・分析機器の開発と輸入販売で長い歴史があります。物性試験といえば、粘性、粘弾性の計測機器からはじまり、その評価をする試験機を取り揃えております。その上で、溶液の粘度・粘弾性を測る粘度計を軸に、電子材料、食品・医薬品、一般化学などの研究や技術開発の場で活用されています。今後も熱物性機器を含め、物性・分析関係の自社製品の開発に力を注いでいきたいと考えております。



日射計MS―80　PV

▼太陽光発電事業推進

――英弘精機の国際戦略はどのようなものなのでしょうか。

私自身が入社した時期でもありましたが、もっと海外との事業を増やさなければいけないということで、2005年にアメリカに「EKO USA」を設け、海外の情報を集めると同時に製品を拡げていくことに努めました。

その中で、ISO9001、ISO14000を取得し、2007年にはオランダに「EKO Europe」を設立しました。アメリカ、オランダそして今日では中国、インドの4か所を拠点に世界に日射計他製品の販売拡充を図っているところです。

その間に、2009年には、経済産業省より「元気なモノ作り中小企業300社」に選ばれ、2013年にはISO17025（試験所及び校正機関の国際認定）を取得しました。

「環境・新エネルギー分野」では、2013年3月に茨城県阿見町に大規模の太陽光発電所（EKO・あみソーラーパーク）をオープンしました。6種類の太陽電池パネルを設置し、比較試験を行いながら発電をおこなうというユニークな発電所です。年間予想発電量72万1000kWhで、一般家庭約200世帯が消費する電力に相当します。

さらに、2015年3月茨城県稲敷市に、2か所目の大規模太陽光発電所（EKO・いなしきソーラーパーク）をオープンしました。ここは、単結晶シリコン太陽電池と高性能パワーコンディショナを組み合わせた、効率追求型の太陽光発電所です。こちらは年間予想発電量205万kWhで、一般家庭約750世帯が消費する電力に相当します。

このように自社で発電事業を行うことで、再生可能エネルギー普及に貢献し、一方では、多種の太陽電池評価機器の実用性を調査し、製品開発に生かしています。

自動車業界で電気自動車が発展するように、これから再生可能エネルギー分野は、かなり伸びていくだろうと思っております。それだけに関連の自社製品を世界に販売をしていきたいと思っています。

さらに風力発電用に、上空の風況調査をする機器の販売も行っております。風況調査といえば、地上にポールを立ててとなるのですが、最近では、風車が大型化し高度が200mに及ぶところまで測定することが求められます。「ドップラーライダーシステムWINDCUBE」は、今までの風況ポールで測れなかった高さの風向風速を高精度で測定することが可能です。

WINDCUBE風況観測用ドップラーライダー

▼「廃棄プラ」ゼロ宣言

――今後の英弘精機はどのように進化していくのでしょうか。

一言でいえば、「グローバル・スタンダードなモノづくりで世界へ」ということです。会社の方向としては、世界に認められる製品、世界に認められる会社になるように努めていくということです。日射計等で取得したISO17025は、まさに保有する技術力や計測器の校正能力の高さを証明するもので、測定機器メーカーにとっては大きなお墨付きです。「世界に通用するパスポート」を手にグローバル企業への飛躍を期しています。

また、コーポレイトアイデンティティーである「EKO」のロゴは「エコ」とも読め、弊社は地球環境保全のために、廃棄プラスチックをゼロにする活動をしております。SNSで世界的に発表した誓約において、2022年末までには、自社製品で使う環境センサーなどの梱包材料等についてプラスチックをやめることを宣言しました。使い捨てプラスチックや非リサイクルプラスチックを使用しない梱包を実現することは、EKOにとって大きな挑戦です。未来に向けて少しでも社会貢献していきたいと思っています。

未来に向けた社会貢献進める

EKO

英弘精機のロゴ。「EKO」は「エコ」とも読める。同社は地球環境保全のため、2022年末までに自社製品の梱包材料などでプラスチックの使用をやめることを宣言した。

会社概要

1927年創業
長谷川壽一代表取締役社長
資本金4000万円
本社所在地：東京都渋谷区幡ヶ谷1―21―8
関西営業所、海外事業所＝EKO Instruments USA Inc./ EKO Instruments Europe B.V. 他